

# 第1章 構想策定の趣旨

## 1. 構想策定の背景

兵庫県の海岸線の中で、播磨沿岸地域は播磨灘に面し、その海域は広く瀬戸内海国立公園に指定されているほか、歴史的施設なども数多く存在し風光明媚な土地柄である。また、古来から我が国の政治、経済、社会の分野において先進的な地位を占めてきた地域であり、水運を背景として各々の時代の技術や産業の先端を担ってきた地域でもある。

播磨沿岸に位置する高砂市の臨海部は、かつて商港として播磨地域の中心的役割を担い、また、戦前・戦後、高度成長期と播磨工業地帯の中核を担い背後圏の活力を支えてきた。しかし、一方で水際線に多くの企業が立地しており、市民にとってなぎさは遠い存在となっている。また、臨海部の企業活動そのものも停滞傾向にあることからこれが高砂市全体の活力低下にもつながっている。

近年、「東播磨地域ビジョン」「瀬戸内なぎさ回廊づくり構想」など、関連計画の中でウォーターフロントミュージアムや人と海がふれあえるなぎさづくりの動きがある他、高砂市総合計画でも自然・風土と調和した環境づくりが提唱されるなど、高砂市のなぎさの再生に向けた要請が高まりつつある。また、これをうけ、荒井地区では全国的にも先駆的な取り組みであるパブリックアクセス事業が進展するなど、高砂市のなぎさを再生する動きが具体化してきている。

## 2. 構想の目的

以上のような背景をうけ、本構想は、「東播磨地域ビジョン」、「高砂市総合計画」、「瀬戸内なぎさ回廊づくり構想」を考慮しながら、また周辺地域との広域的な連携の視点を取り入れ、みなととその周辺部において、多くの企業が立地する水際線を市民に開放するなどにより、快適で美しく賑わいのある空間を提供することで市民生活に癒しと安らぎを与えるとともに、港湾・道路などの社会基盤や地域資源を活用し、産業と地域の活性化を図ることを目的とするものである。

なお構想の検討においては、市民を主体とする「高砂みなとまちづくり構想策定懇話会」を設置するとともに、ヒアリングやアンケートに加えてパブリックコメント手続きを実施し、参画と協働により広範な意見を収集し、提言にはこれらを十分に反映することとする。

以上の内容をもとに、構想の検討フローを図1に示す。



高砂みなとまちづくり構想策定懇話会

合計三回

参画と協働

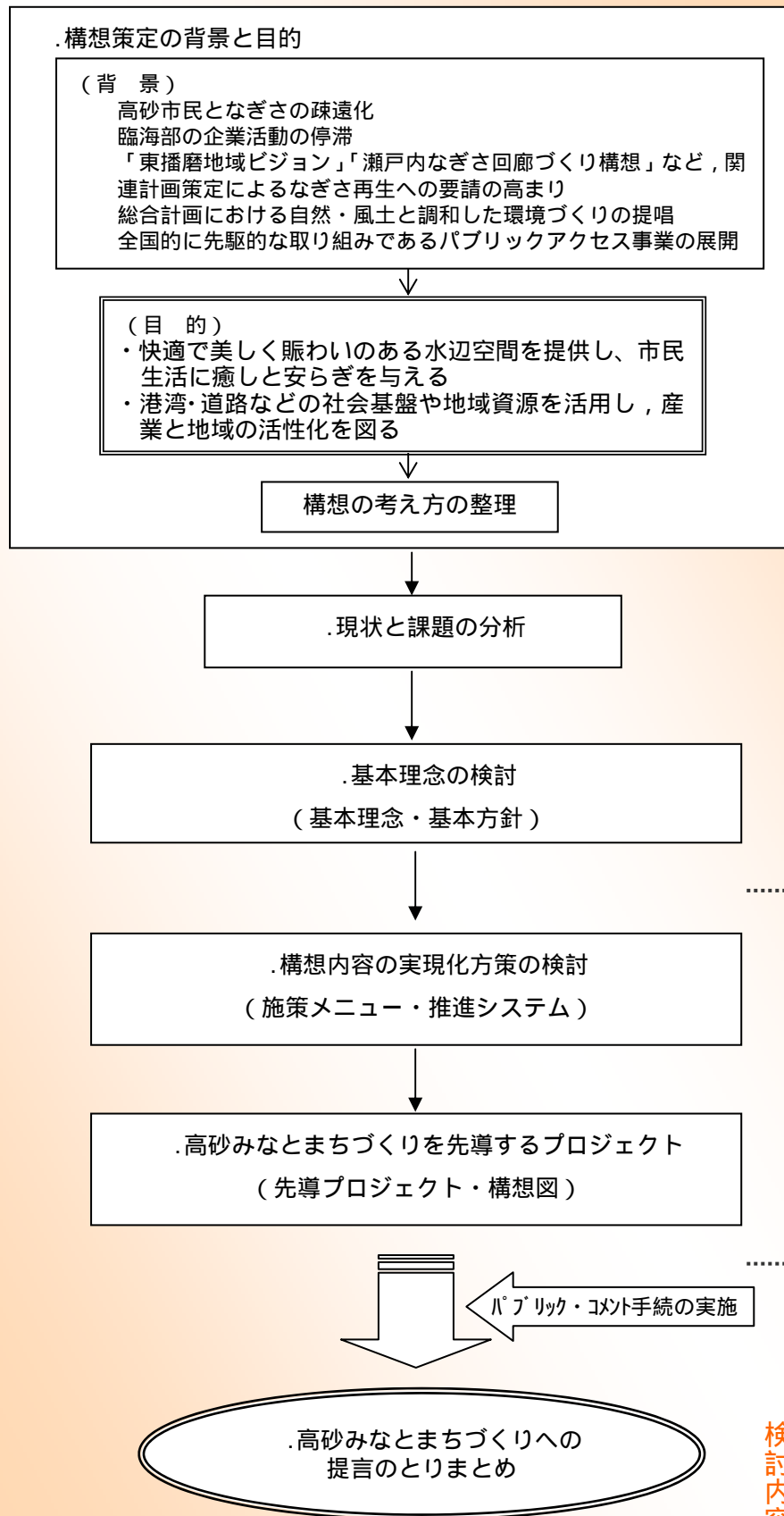


図1 高砂みなとまちづくり構想検討フロー

### 3. 構想の考え方

構想の考え方を以下のとおり設定する。

#### 3-1 構想の目標年次

##### (目標年次の設定)

21世紀の社会経済状況の変化を長期的に展望し、第一四半期の2025年とする。中期的には「東播磨地域ビジョン」(計画年2010~2015年)、「高砂市総合計画」(計画年2010年)を見据えながら、それらとの整合を図っていく。

#### 3-2 構想検討にあたっての考え方

構想の背景と目的をもとに以下のとおり設定する。

検討の背景

検討の目的

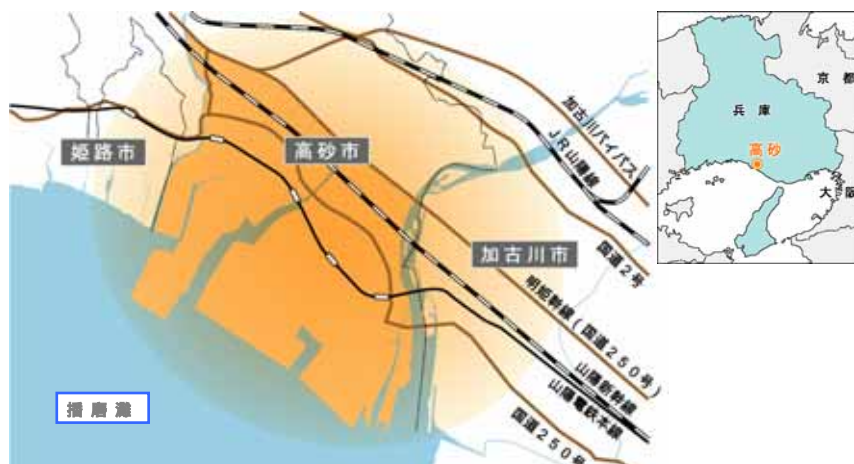
##### (構想検討にあたっての考え方)

高砂市と周辺地域に存在するさまざまな既存の施設や優れたポテンシャルを最大限に活用し、市全体の活力向上に資する構想をめざす。そのため、従来の行政主体の開発型ではなく参画と協働による活用調和型を基本とする。またこの構想は、市民を主体とする懇話会からの提言としてとりまとめるものである。

#### 3-3 構想の対象地域

##### (構想の対象地域の考え方)

概ね明姫幹線(国道250号)以南の高砂臨海部とする。また、本構想では、高砂市全体の活力向上をめざすことから、必要に応じて市域全体を対象とした現況把握を行うとともに、広域連携の観点から近隣地域の情勢の把握などについても視野に入れることとする。

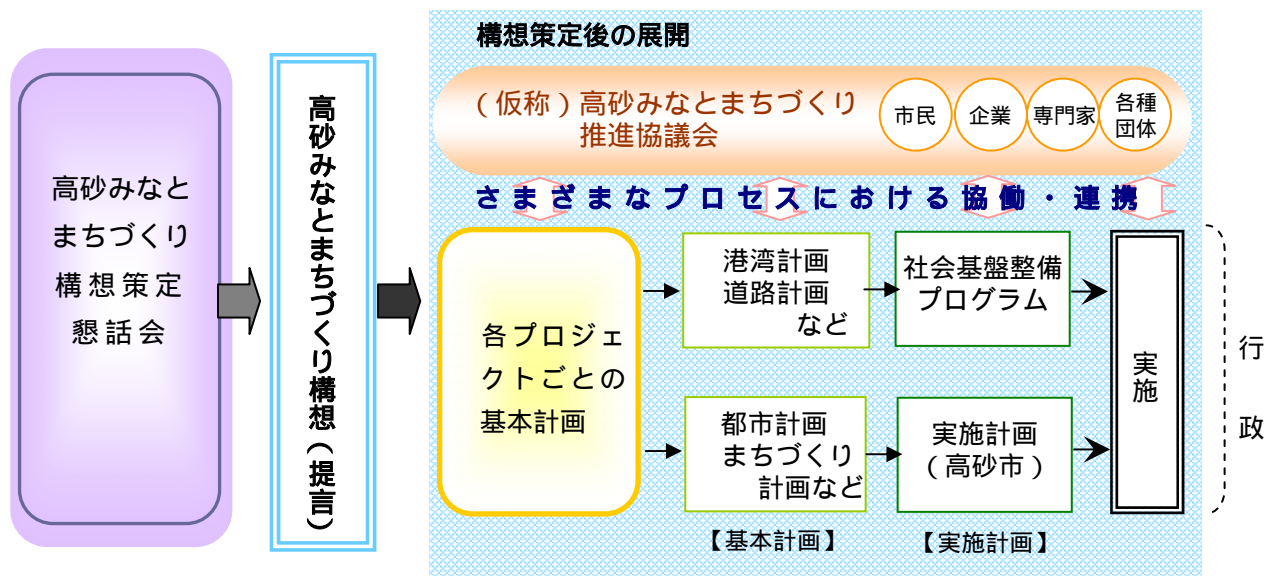


### 3-4 構想の性格と展開について

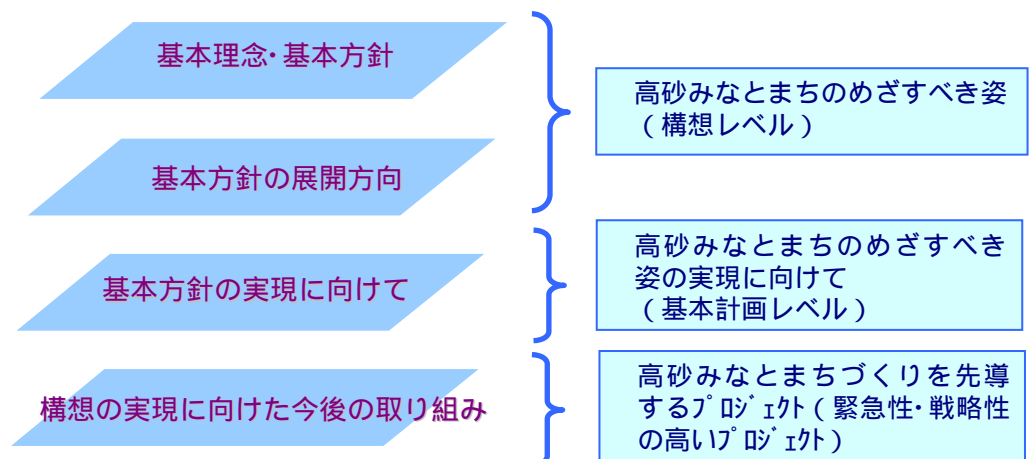
#### 構想の性格

- (1) 構想は懇話会からの提言としてとりまとめられるものであり、具体的な計画・プロジェクトを示すものではない。なお、とりまとめた提言については「(仮称)高砂みなとまちづくり推進協議会」を設置し、その実現に努めるものである。また、推進協議会で検討された各プロジェクトを基本計画に反映させることによって具体化を図っていく。
- (2) 構想検討にあたっては高砂市臨海部を対象エリアとするが、検討のプロセスでは周辺地域との連携や港湾を含む交通機能について広域連携の視点を考慮する。

#### (仮称)高砂みなとまちづくり推進協議会を主体とする構想の展開



(参考 構想の構成)



## 第2章 現状と課題の分析

現状と動向を踏まえ、以下に本構想への要請をまとめる。

### 高砂市の近年の社会経済情勢の変化

#### 市の活力低下

- ・ H12 H42 で約 1.2 万人の人口減少予測（H15 現在，将来予測を百人下回る）
- ・ 事業所数 H3(3,930) H13(3,678)に減少（特に小規模事業所，商店など）
- ・ 所得格差指標の低迷 H14(全国を 100 とすると高砂市は 94.6)
- ・ H16.2 時点の高齢化率は 16.7%（兵庫県では 18.7%）

#### 昼間人口の減少

- ・ 通勤流出増加により昼間人口比率 S40(103.6) H12(96.4)に減少

#### 市の基幹産業の低迷

- ・ 主産業である製造業の近年における停滞傾向（事業所数，従業者数，製造品出荷額）

#### 臨海部の活力低下

- ・ 対象地区の製造品出荷額の低迷 H4(約 6.9 千億円) H13(6.6 千億円)

#### 製造業における高付加価値化の進展

- ・ 従業者一人当たり製造品出荷額の向上 S42(0.7 千万円) H14(5.7 千万円)

#### 商業の衰退

- ・ 商店数の減少，販売額の低迷
- ・ 商店へのアンケートでは，にぎわいの欠如，商業の停滞，の回答が約 9 割
- ・ 人口当たり商店数，販売額の減少

#### 臨海部の大半に工場が立地

#### 高砂市の都市公園面積の不足

- ・ 国の長期目標である 20 m<sup>2</sup>/人に対し高砂市は 7.65 m<sup>2</sup>/人（H14）

#### 住工混在地域の存在

#### 曾根地区と姫路臨海部（大塩的形）の過去の一体性

#### 水際線へのアクセス道路計画，臨海部の交通網充実の動き

- ・ 内陸部の道路網は充実しているが水際線へのアクセス道路は少ない
- ・ 臨海部の道路や歩行者軸の計画



### みなとまちづくり構想検討への要請

#### 高齢化社会への対応

市の活力向上

昼間人口の増加

臨海部における産業活性化

臨海部の土地利用再編

商業の活性化

適正な公園面積の確保

水際線へのアクセス向上・臨海部の交通網充実

姫路臨海部との連携の可能性

## 高砂市の歴史

### 港とともに発展した市の深い歴史の存在

- ・ かつて加古川の水運，瀬戸内航路の拠点
- ・ 臨海部の工業化の進展
- ・ 深い歴史を有し旧高砂港を中心にまちの発展に寄与してきた

### 文化や市民活動などのポテンシャルの高さ

- ・ 高砂市から発祥した「入浜権運動」の全国展開
- ・ 高砂市の風土が育てた多分野にわたる優秀な人材（佐々木すぐるなど）の輩出

### 市と播磨地域の発展を支えてきた企業のポテンシャルの高さ

- ・ 臨海部に工業地帯が立地し工業港として繁栄
- ・ 大規模工業用地造成により大企業が立地
- ・ 古くから操業を開始しさまざまな製品を研究開発しながら産業活力として発展

### 歴史的施設・資源の存在

- ・ 舟運時代の堀川周辺におけるかつての情緒あるまちなみ
- ・ 高砂市の風土が育てた多分野にわたる優秀な人材（工楽松右衛門など）の輩出

### 堀川周辺の貴重な歴史的景観・資源の存在

- ・ 特に堀川周辺を中心とした歴史的施設の分布があり，市の中心として発展してきたことがわかる



## みなとまちづくり構想検討への要請

文化や市民活動などのポテンシャルの継承

深い歴史の継承と再現

市と播磨地域の発展を支えてきた企業のアピールと活力  
向上の必要性

歴史的施設・資源の有効活用とアピール

堀川周辺の景観・資源の保全・継承と活性化の必要性

## 水際線の状況

### 市民が近づける水際線創出の動き

- ・ほとんどが近づけない水際線
- ・全国的に先駆的な取り組みであるパブリックアクセス事業により市民が近づける水際線創出の動き

### 企業内緑地増加の可能性

- ・緑地率が低い(20%以下が過半数)

### 港湾施設が奥まった水域に存在

- ・法華山谷川、堀川など多くの港湾施設が奥まった水域に位置

### 大水深岸壁がない

- ・最大水深は専用-7.5m公共-5.5m

### プレジャーボート放置艇問題

- ・河川河口付近では、プレジャーボート放置艇が漁船と混在して係留

### 臨海部のにぎわいの創出

- ・臨海部には商業・レクリエーション施設は僅か

### 曽根地区と姫路臨海部(大塩的形)の過去の一体性

### 台風時の浸水被害の発生(H16)

- ・平成16年の台風時に臨海部の浸水被害が発生

### 海岸保全施設などの老朽化が進行

### 曽根地区におけるゴミ問題の顕在化



## みなとまちづくり構想検討への要請

市民が近づける水際線の創出  
パブリックアクセスの可能性  
臨海部のにぎわいの創出  
港湾施設再編の必要性  
プレジャーボート放置艇問題の解消  
過去からの一体性を踏まえた大塩的形地区との連携(レクリエーション機能)  
臨海部の安全・安心確保の必要性  
曽根地区におけるゴミ問題の解決

## 物流の状況

### 港湾施設利用の偏在

- ・高砂港区，曾根港区は取扱量増加，伊保港区は減少
- ・ふ頭用地の利用率が偏在

### 高砂西港の利用が低調

### 高砂地区港湾取扱量の低迷

- ・1997年をピークに取扱量は減少傾向（特に伊保地区）

### 砂・砂利中心の公共貨物

- ・公共貨物全体の過半数が砂・砂利

### 専用貨物中心の貨物特性

- ・公専比率は9割以上が専用貨物

### 直背後圏を中心とした東播磨港の貨物流動

- ・輸出入，移出は直背後圏との流動が大半であるが，移入は内陸の広い範囲の流動がみられる
- ・輸入では約7割が高砂市との流動
- ・移出では6割が姫路市で2割が高砂市との流動

### 背後圏全体の貨物の4割が神戸港，3割が姫路港に流出

- ・播磨・丹波地域の港湾貨物の42%が神戸港利用，25%が姫路港利用，23%が東播磨港利用(H13)

### 水際線へのアクセス道路計画，臨海部の交通網充実の動き

- ・内陸部の道路網は充実しているが水際線へのアクセス道路は少ない
- ・臨海部の道路や歩行者軸の計画



## みなとまちづくり構想検討への要請

**港湾施設再編の必要性**  
**新たな物流機能確保の必要性**  
**利用率の低い高砂西港への期待**  
**臨海部の交通網充実の動きに対応した姫路港との連携の可能性**



## みなとまちづくりに関するニーズ

<< アンケート結果より >>

### 癒し空間の不足

- ・現状で雰囲気がなく殺風景であり、散歩したり夕日を見たりする緑地や公園など、のんびりした癒しへのニーズ

### 海浜空間への需要

- ・現状では海に触れることができず、潮干狩りや海水浴を楽しみたいというニーズ

### にぎわい空間への需要

- ・みなとの朝市やレストランなどへのニーズ

### 各企業の施設整備要望

- ・過半数の企業が高砂地区の港湾を利用
- ・大水深岸壁整備要望がある

### 漁業関連施設の浚渫要望

- ・不法投棄やヘドロ・土砂の堆積問題が顕在化



## みなとまちづくり構想検討への要請

癒し空間（公園・緑地）の提供  
既存海浜の再生  
商業施設やイベントなどによるにぎわいの提供  
各企業のニーズを踏まえた施設整備の必要性  
漁業関連施設の浚渫などの必要性

## 参画と協働に関する動き

### 構想段階からの住民参加の全国的な動き

- ・ 構想・計画検討段階からの住民参加の動き
- ・ 全国のみなとまちづくり事例では、各種団体が参画し、協議会やグループを設置し、さまざまなイベントやみなと空間計画、港湾施設のあり方などを検討し、その管理運営までを実施

### 高砂市の参画と協働に関するポテンシャルの高さ

- ・ 高砂市においては「明姫幹線南地区まちづくり協議会」、「堀川周辺のまちなみを考える会」、「いなみ野ため池ミュージアム」など、既に構想・計画段階からの参画と協働が実践されている

<<アンケート結果より>>

### 事業所・漁業者などの参画と協働に関する意向は大きい

- ・ 事業所などの協力意向は、「積極的に協力する」、「要請があれば協力する」といった意向が7割以上
- ・ 漁業者は、朝市や釣堀などの集客施設に協力したい意向
- ・ 一般事業所・商店の臨海部進出検討意向
- ・ 臨海部立地事業所では用地の開放や地域との交流が比較的積極的に行われている。(ヒアリング結果)



## みなとまちづくり構想検討への要請

**構想段階からの住民参加の必要性**  
**高砂市の参画と協働に関するポテンシャルの高さを活用**  
**事業所・漁業者臨海部立地事業所の参画と協働に関するポテンシャル・意向を活用**

## 関連計画におけるキーワード

### 自然・環境との調和

- ・自然との調和や環境に配慮した交流拠点づくり

### 親水空間の整備

- ・ウォーターフロントミュージアム構想
- ・パブリックアクセス事業の推進
- ・海と世界への玄関口となる交流拠点づくり
- ・安全・安心と福祉に満ちた地域づくり
- ・水と緑のシンボル拠点・観光資源のネットワーク
- ・市民への水際線の開放
- ・水辺空間の確保

### 参画と協働の推進

- ・市民が主体となった参画と協働によるまちづくり

### 産業の活性化

- ・日本を先導するものづくりのまち
- ・産業元気な地域づくり
- ・新産業の誘致
- ・港湾機能の強化
- ・水産業の基盤整備

### 地域づくりプログラムの推進

- ・環境教育や歴史を伝える地域づくりプログラム・交流プログラムの推進
- ・学習プログラムの推進

### 歴史的資源の保全・活用

- ・歴史的資源の保全・活用と散策ルートの設定
- ・中心拠点ゾーンの核としての位置づけ

### 臨海部の再編

- ・遊休地の有効利用
- ・住宅地からの工場移転・誘致
- ・神戸姫路間道路構想の進展
- ・工業公園の活用方法の検討
- ・安全・安心にかつ容易に利用できるなぎさの創出
- ・港湾・漁港活動と調和したなぎさの創出
- ・水域利用の適正化



## みなとまちづくり構想検討への要請

自然・環境との調和  
親水空間の整備  
参画と協働の推進  
産業の活性化  
地域づくりプログラムの推進  
歴史的資源の保全・活用  
臨海部の再編

### 第3章 基本理念の検討

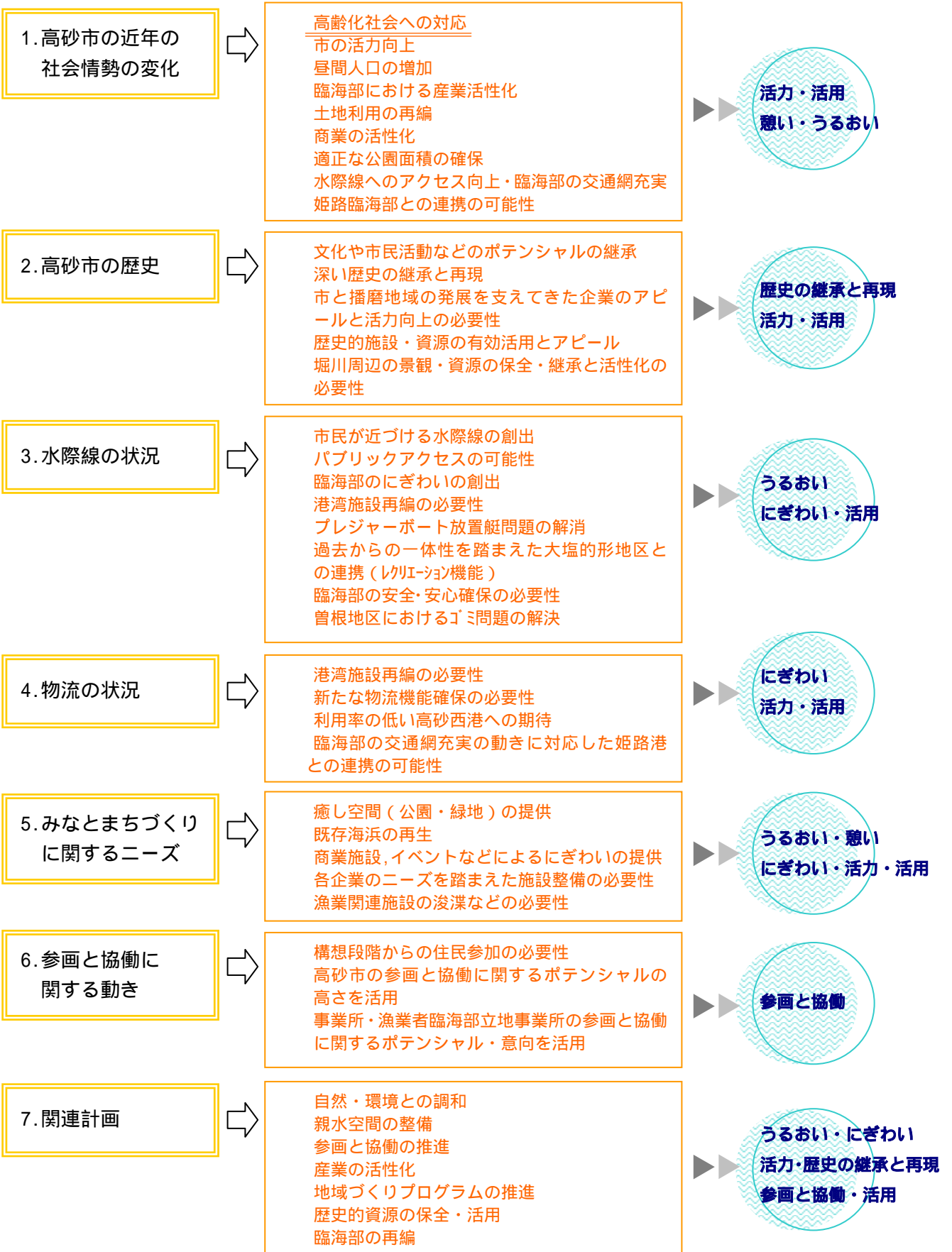
#### 1. 基本理念と基本方針

現状と動向から整理される要請をもとに構想の基本理念と基本方針を検討する。

【現状と動向の分類】

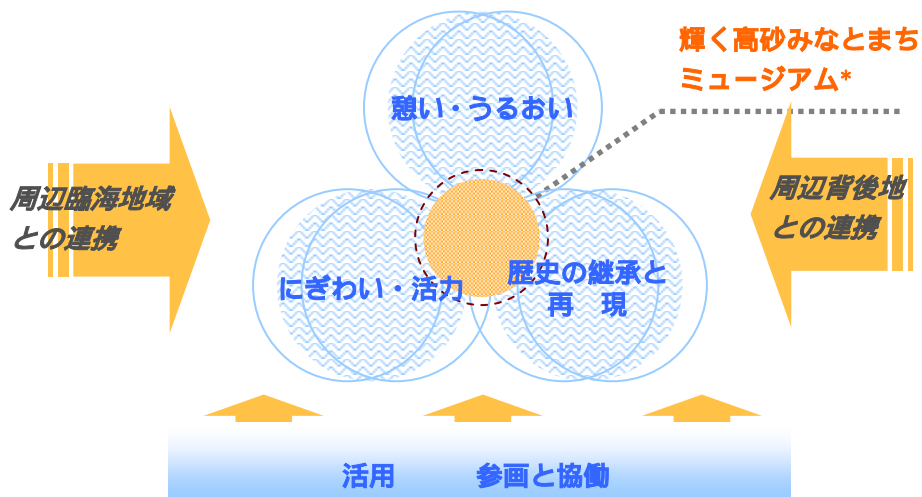
【本構想への要請】

【キーワード】



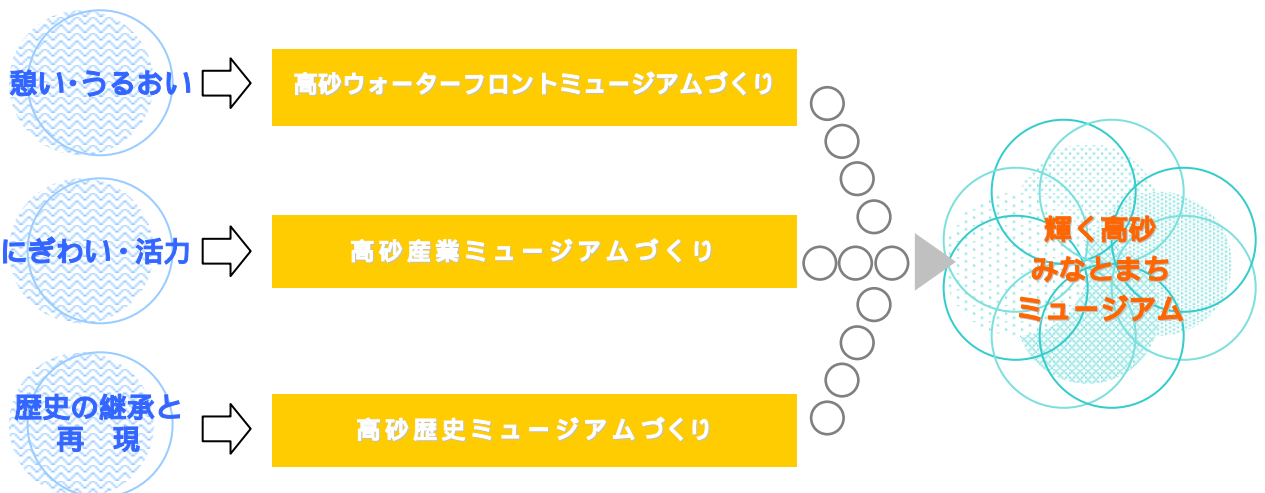
(基本理念); 市民・企業・行政の融和・連携・参画と協働によりつくりあげる高砂みなとまち  
 ~ 輝く高砂みなとまちミュージアム構想 ~

本構想は、高砂市臨海部において、快適で美しく賑わいのある水辺空間を提供し市民生活に癒しと安らぎを与えるとともに、港湾・道路などの社会基盤や地域資源を活用し、産業と地域の活性化を図ることを目的としている。そのため、安全・安心を確保した上で、周辺地域との連携に配慮し、既存のあらゆる資源を活用するとともに、需要に応じた新しい空間も形成しつつ、それらが調和・ネットワークするミュージアムの実現をめざすものである。そのために市民・企業・行政が融和・連携を深め、参画と協働により輝く高砂みなとまちをつくり上げることを基本理念とするものである。



\*ミュージアムは従来の博物館のように建物の中に資源を集めて展示するのではなく、地域全体が博物館であるという考えに基づく地域づくりであり、地域が受け継いできた資産を保存・再生するとともに新たな拠点を創出し、地域全体の中で展示していこうとするものである。その主体は地域住民や企業であり、住民・企業・行政が協力することにより、お互いに学び・工夫しながら地域の新しい将来像をつくりあげていこうとするものである。

(基本方針)



## 2. 基本方針の展開方向

先に設定した基本方針の展開方向を以下に示す。

憩い・うるおい

### 基本方針 : 高砂ウォーターフロントミュージアムづくり

環境基本法の理念を踏まえ、海域などの環境保全の積極的な推進と持続的発展が可能な開発整備への転換を基本とし、高砂の陸域を含めた環境空間の積極的な再生と創造を図る。このため、企業が立地する水際線を市民の暮らしに身近な憩いの場とするなど、「瀬戸内なぎさ回廊づくり構想」や「東播磨ウォーターフロントミュージアム構想」の一翼を担ううるおいに満ちた高砂ウォーターフロントミュージアムづくりを進める。



#### (基本方針の展開方向)

市民の憩いの場であるなぎさを再生していくとともに、市民の暮らしとなぎさまでの距離を縮めるアクセスの充実、また周辺地域との連携を深めて水際線利用の可能性を拡げることがめざしていく。

市民の憩いの場であるなぎさの再生  
市民の暮らしとなぎさの距離を縮めるアクセスの強化  
周辺地域との連携による一層の水際線利用



高砂ウォーターフロントミュージアムづくり



## 基本方針：高砂産業ミュージアムづくり

古くから高砂の発展を支えてきた臨海部活力の低迷を受け、その歴史とポテンシャルを生かした高砂臨海部の再編，経済・産業の活性化により，高砂市全体の活力向上を図る。このため，臨海部のにぎわい・活力の向上を図り，市域全体へ波及効果が期待できる元気な高砂産業ミュージアムづくりを進める。



### （基本方針の展開方向）

臨海部企業ひいては産業全体の活性化に向けて港湾・道路などについて安全・安心や環境面に配慮した社会基盤の充実を図るとともに，産業ツーリズムの推進や、さらなる産業の誘致・支援などで産業を活性化させ、臨海部に人々を呼び込むことでにぎわい空間としていく。一方，漁業においては，漁業の活性化によるにぎわい空間の創出をめざす。

港湾・道路などの社会基盤の充実による産業支援  
 産業の活性化によるにぎわい空間の創出  
 漁業の活性化によるにぎわい空間の創出



高砂産業ミュージアムづくり



## 基本方針 : 高砂歴史ミュージアムづくり

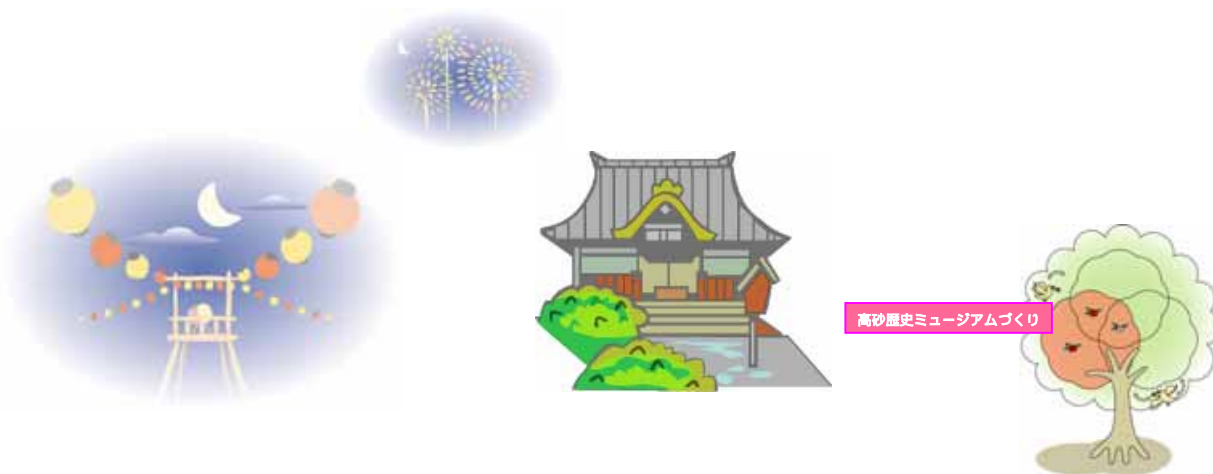
高砂の深い歴史の継承と再現をめざし、みなとの発展とともに成長してきた経緯を踏まえながら、将来にわたって市民が誇りに思えるみなとまちを引き継いでゆくための空間として、高砂歴史ミュージアムづくりを進める。



### (基本方針の展開方向)

堀川地区、今市地区、曾根地区などみなとの発展に関連する歴史的資源を有する高砂市のポテンシャルを活かした深い歴史の継承と再現、歴史的資源の発掘・保全を図り、観光資源として活用していくことによって次世代に継承可能なみなとまちづくりを進める。

みなとの発展に関連深い歴史的資源の保全・再現  
歴史ある高砂の祭りの保全と観光資源としての活用





### 1. 基本方針の実現に向けて



## 高砂ウォーターフロントミュージアム の実現のために



企業が立地する水際線を開放し、なぎさを市民の暮らしに身近な憩いの場とするため、「瀬戸内なぎさ回廊づくり構想」や「東播磨ウォーターフロントミュージアム構想」の一翼を担う、うるおいに満ちたみなとまちづくりを進める。

そのために、市民の憩いの場であるなぎさを再生しネットワークを強化するとともに、市民の暮らしとなぎさまでの距離を縮めるアクセスの充実、また周辺地域との連携を深めて水際線利用の可能性を拡げることがめざしていく。

#### (施策メニュー)

#### 基本方針の展開方向 1. 市民の憩いの場であるなぎさの再生

##### パブリックアクセス事業による水際線の開放

水際線の多くに企業が立地する高砂臨海部においてなぎさを再生するためには、企業用地を海浜緑地として市民に開放していくパブリックアクセス事業の活用が有効であり、現在、全国的に先駆的な取り組みとして、荒井地区で事業が推進中（平成 18 年度完成予定）である。今後も他地区での事業拡大の可能性や他の親水空間との連携、利活用を進めるために市民など利用者への宣伝手法について検討していく。

##### 既存施設を活用した親水空間の創出

高砂臨海部の水際線付近は企業用地、公共ふ頭などが立地しており、新たに親水空間をつくることは難しいが、公共ふ頭、専用ふ頭の再編などのために新たな用地を設ける場合には、みなが見える丘公園など、積極的に新たな親水空間の配置、と既存施設を活用した水辺の散策路を検討していく。また、プレジャーボートなどの放置艇対策として、サービス機能を付加したパークや係留施設整備を検討していく。

##### 高砂海浜公園・向島公園の再生

県下でも貴重な自然が残されている加古川河口部から向島公園、また貴重な水辺空間である高砂海浜公園などとの一体的利用を促すネットワークを充実（アクセス整備やイベント連携など）させるとともに、展望施設の整備や松林を活用した名所づくり、老朽化した駐車場や公園施設の改良などによるリニューアルを図る。これにより、現況でも高砂市随一の集客数（約 30 万人/年）をほこる高砂海浜公園・向島公園の付加価値を高め、広域的集客拠点としての方向性が期待できる。また、これらを多様なメディアを用いて PR する必要がある。

#### 基本方針の展開方向 2. 市民の暮らしとなぎさの距離を縮めるアクセスの強化

##### 南北交通軸の整備促進

なぎさを市民の暮らしに身近なものとするためには、東西交通軸である国道 2 号、250 号などから水際線までの良好なアクセスの確保が必要である。中でも、宝殿荒井線から荒井パブリックアクセスまでの南伸ルートの整備は効果が高い。また、沖浜平津線は高砂西港再編と一体的に整備することにより、西港周辺の水辺空間が広域的親水空間となる可能性を秘めている。

##### サイン設置によるアクセス性の強化

南北交通軸が水際線まで到達していない高砂臨海部では、市街地から水際線までのアクセスがわかりにくい。これを改善し、多くの人々を臨海部に誘導できるようにするため、随所に看板などのサインを設置することによって、水際線までのアクセスを容易にしていく。

#### 基本方針の展開方向 3. 周辺地域との連携による一層の水際線利用

##### 姫路市東部臨海地域との連携強化

高砂市に隣接する姫路市東部臨海地域においては自然海浜が残されており、高砂市とのネットワークを充実させることで高砂市民にとって自然海浜が身近なものとなる。このネットワークに位置づけられるのが都市計画道路高須松村線であり、整備促進によりさらなる水際線利用の可能性が広がる。また過去から塩田として一体的に利用されてきた曾根地区についても現状のゴミ問題の解決を進め、将来的には姫路市東部臨海地域との一体的利用が可能なウォーターフロント空間としての土地利用を検討する。



## 基本方針

# 高砂産業ミュージアムの実現のために

高砂の経済再生と産業活性化に向けて、臨海部のにぎわいと活力の向上を図り、それに伴い市域全体への波及効果が期待できる元気な産業ミュージアムづくりを進める。産業の活力向上・発展を支援するため、港湾・道路などについて安全・安心や環境面に配慮した社会基盤の充実を図るとともに、産業ツーリズムの推進や、産業の誘致・支援などで産業を活性化させ、臨海部に人々を呼び込むことでにぎわい空間としていく。一方、漁業においては、漁業の高付加価値化によるにぎわい空間の創出をめざす。

### (施策メニュー)

#### 基本方針の展開方向 1 . 港湾・道路などの社会基盤の充実による産業の支援

##### 港湾機能の充実

背後圏の貨物流動の状況と近年の港湾をとりまく状況の変化をもとに、背後圏の貨物を取り扱える物流拠点機能を、高砂西港のリニューアルにより整備する。なお、物流拠点として機能するためにはアクセス道路となる都市計画道路沖浜平津線の整備が条件となることからこれと併行して進めるとともに、既存の港においては、適切な維持管理により港湾機能の充実を図る。

##### 道路など社会基盤の充実

臨海部工業地帯から広域幹線道路へのアクセスの強化の為に沖浜平津線や、姫路東部臨海地域との接続強化の為に高須松村線の整備を急ぐとともに、神戸と姫路の臨海部をダイレクトに貫く規格の高い道路として神戸姫路間道路構想を推進する。また、各企業や市民のニーズを踏まえ、関連道路（千鳥橋など）の整備を着実に進める。

##### 他港との連携強化

臨海部企業の物流合理化とモーダルシフトを推進するため、現状で神戸港に陸上輸送している港湾貨物を高砂西港で取り扱うことをめざした港湾施設の再整備を推進する。また輸出入バランスの確保や定期航路との連携を促すため、姫路港・神戸港との輸送ネットワークの形成をめざし、その一環として高須松村線の整備を急ぐとともに、神戸姫路間道路構想を推進する。

#### 基本方針の展開方向 2 . 産業の活性化によるにぎわい空間の創出

##### 産業ツーリズムの推進による企業技術や産業遺産のPR

高砂市臨海部においては、世界的に優れた技術を持つ工場や、古い遺産を持つ工場が立地している。これらを広く市民に公開しアピールすることにより企業イメージの向上が図れるとともに、産業のみであった空間に新たに人々を呼び込むことにつながり、臨海部の活性化に寄与できる。このためその拠点となる機能を整えるとともに、産業ツーリズムを積極的に推進するため、陸上だけでなく海上ルートの設定、大和朝廷時代から竜山石を産出している生石周辺との連携やボランティアガイドの活用を検討する。

##### 規制緩和などのソフト施策による産業誘致・支援

臨海部産業の活性化を図るため、不動産取得税の軽減などの税制措置や研究に関する資金支援、構造改革特区や地域再生制度の活用、産業誘致・支援に関するインセンティブの導入などのソフト施策について検討し、積極的に適用していく。

#### 基本方針の展開方向 3 . 漁業の活性化によるにぎわい空間の創出

##### 観光漁業による高付加価値化

魚貝類の水産市場や体験漁業、物産づくりなどの観光漁業を進めることによって、現状の漁業活動の高付加価値化を推進する。これにより、市外から人々を呼び込むことができるとともに、さらには地元の名産をアピールすることにもつながり、あなご、蛸などを名産とする高砂漁業の活性化策の一つとして期待される。

##### 藻場などの保全水域の設定と魚礁設置などによる漁業支援

乱獲を防ぎ漁業資源を保全するために、水産行政と連携し藻場などの保全水域を設定するとともに魚礁を設置することなどにより、高砂の漁業資源を継承し、安定した漁業の継続をめざす。



## 基本方針

# 高砂歴史ミュージアムの実現のために

高砂の深い歴史の継承と再現をめざし、とりわけみなとの発展とともに成長してきた経緯を踏まえながら、各種団体と連携し将来にわたって市民が誇りに思えるみなとまちとして次世代に引き継ぐ空間形成を進める。

そのためには、堀川地区、今市地区、曾根地区などのみなとの発展に関連する歴史的資源を有する高砂市のポテンシャルを活かした深い歴史の継承と再現、歴史的資源の発掘・保全を図り、観光資源として活用していくことによって次世代に継承可能なみなとまちづくりを進める。

### (施策メニュー)

#### 基本方針の展開方向 1. みなとの発展に関連深い歴史的資源の保全・再現

##### 歴史的資源の保全・再現

堀川地区・今市地区・曾根地区などのみなとの発展に関連深い歴史的資源の有効活用とアピールを実施する。これら資源の観光資源として活用を図り、将来的には広域的な観光拠点をめざす。また、関連団体との連携によるセミナーやワークショップの開催などのソフト施策の推進を検討する。とりわけ堀川地区においては、昔高砂が加古川と瀬戸内航路をつなぐ船運の拠点として繁栄した面影を残しており、景観形成地区指定を足がかりとしてその景観を再現・保存する。

##### 堀川水路の景観形成

堀川は、昔は加古川の一部であり、加古川を行き来する船の拠点であったが、近年の臨海部開発により加古川とは切り離され、単独の水路として現在に至っている。しかし、かつて船着き場として整備された堀川の独特な形状をとどめているとともに、一部には高砂を産地とする竜山石が護岸に使用され現在も残っており、昔の景観を整えることによって、堀川地区の歴史的景観の中心地となる可能性を十分に秘めている。今後堀川水路の景観については十分な議論をすすめ、その修景をめざしていくべきである。

#### 基本方針の展開方向 2. 歴史ある高砂の祭りの保全と観光資源としての活用

##### 祭りの保全・活用

船渡御神事の高砂神社、仁輪加太鼓の荒井神社、一つ物神事の曾根天満宮をはじめ、高砂市の秋祭りは、ヤッサと呼ばれる煌びやかな金具や豪華な布団屋根屋台を勇壮に練りあわすことでも知られる。これらの多くの祭りを高砂の文化として保存・継承していき、また連携させながらアピールすることにより観光資源としての活用も可能となる。

##### 高砂神社秋祭り船渡御神事の支援

特に海との関係が深い船渡御神事については、昔は砂浜から神輿を船に載せられたが、近代の護岸整備により砂浜がほとんど無いため、昔のような船渡御神事が行えない現状となっている。今後のあり方についての議論をすすめ、その保存と継承をめざす。

## 2. 空間利用の方向性

高砂みなとまちづくりにおける空間利用の方向を以下に示す。

### 高砂ウォーターフロントミュージアム

1. 市民の憩いの場であるなぎさの再生  
パブリックアクセス事業による水際線の開放  
既存施設を活用した親水空間の創出  
高砂海浜公園・向島公園の再生
2. 市民の暮らしとなぎさの距離を縮めるアクセスの強化  
南北交通軸の整備促進  
サイン設置によるアクセス性の強化
3. 周辺地域との連携による一層の水際線利用  
姫路市東部臨海地域との連携強化



#### (空間利用の方向性)

「市民の憩いの場であるなぎさの再生」を既存の親水空間と海を望むことのできる水際線(臨海部企業用地の先端など)で展開する。  
「市民の暮らしとなぎさの距離を縮めるアクセス強化」を南北交通軸で展開する。  
「周辺地域との連携による一層の水際線利用」を姫路港との陸の連携軸で展開する。

### 高砂産業ミュージアム

1. 港湾・道路などの社会基盤の充実による産業の支援  
港湾機能の充実  
道路など社会基盤の充実  
他港との連携強化
2. 産業の活性化によるにぎわい空間の創出  
産業ツーリズムの推進による企業技術や産業遺産のPR  
規制緩和などのソフト施策による産業誘致・支援
3. 漁業の活性化によるにぎわい空間の創出  
観光漁業による高付加価値化  
藻場などの保全水域の設定と魚礁設置などによる漁業支援



#### (空間利用の方向性)

「港湾・道路などの社会基盤の充実による産業の支援」を新たな拠点としての可能性を秘める高砂西港と内陸を結ぶ南北広域交通軸と姫路港とを結ぶ東西交通軸で展開する。  
「産業の活性化によるにぎわい空間の創出」のために、遊休地などに拠点機能を配置する。  
漁業の化をすすめるためにその拠点機能を幹線道路周辺で展開するとともに、藻場などの保全水域や魚礁設置などを沖合いに位置づける。

### 高砂歴史ミュージアム

1. みなとの発展に関連深い歴史的資源の保全・再現  
歴史的資源の保全・再現  
堀川水路の景観形成
2. 歴史ある高砂の祭りの保全と観光資源としての活用  
祭りの保全・活用  
高砂神社秋祭り船渡御神事の支援

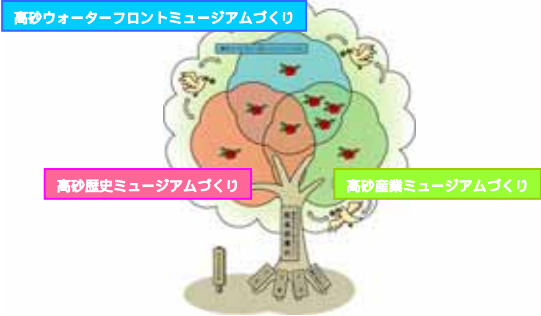
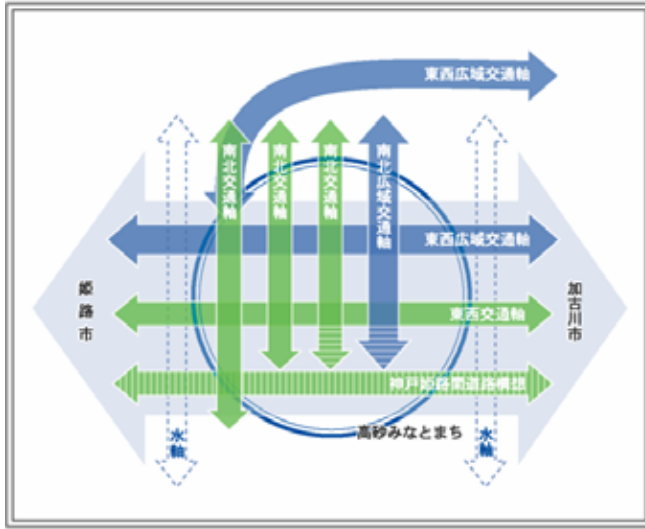


#### (空間利用の方向性)

高砂歴史ミュージアムを堀川地区・今市地区・曾根地区を中心に展開する。

< 臨海部の骨格とゾーニング >

背後都市軸・交通軸と高砂みなとまちの関連イメージ

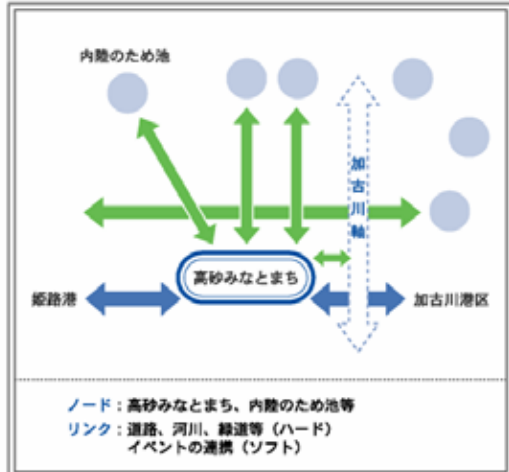


- 【考慮事項】**
- ☆ 臨海部と背後都市の連携・調和に向けて都市構造の軸を考慮に入れる
  - ☆ 東播磨ウォーターフロントミュージアム構想の新しい拠点として「高砂みなとまち」をとらえ、水のネットワークを考慮する
  - ☆ 瀬戸内なぎさ回廊構想の一翼を担う、回廊形成を考慮する
  - ☆ 姫路港との連携による港の相互連携、市の相互発展の方向性を考慮する
  - ☆ 社会資本重点プログラムや市の都市計画マスタープラン等の関連計画を考慮する



※神戸姫路間道路構想はイメージを表しており、計画箇所は未定である。

東播磨ウォーターフロントミュージアムのイメージ



瀬戸内なぎさ回廊のイメージ



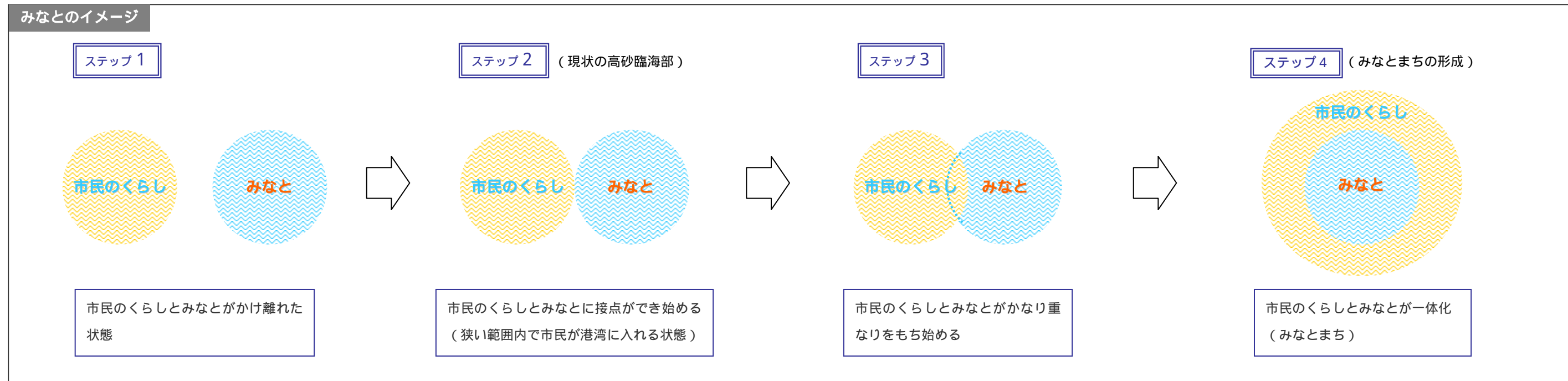
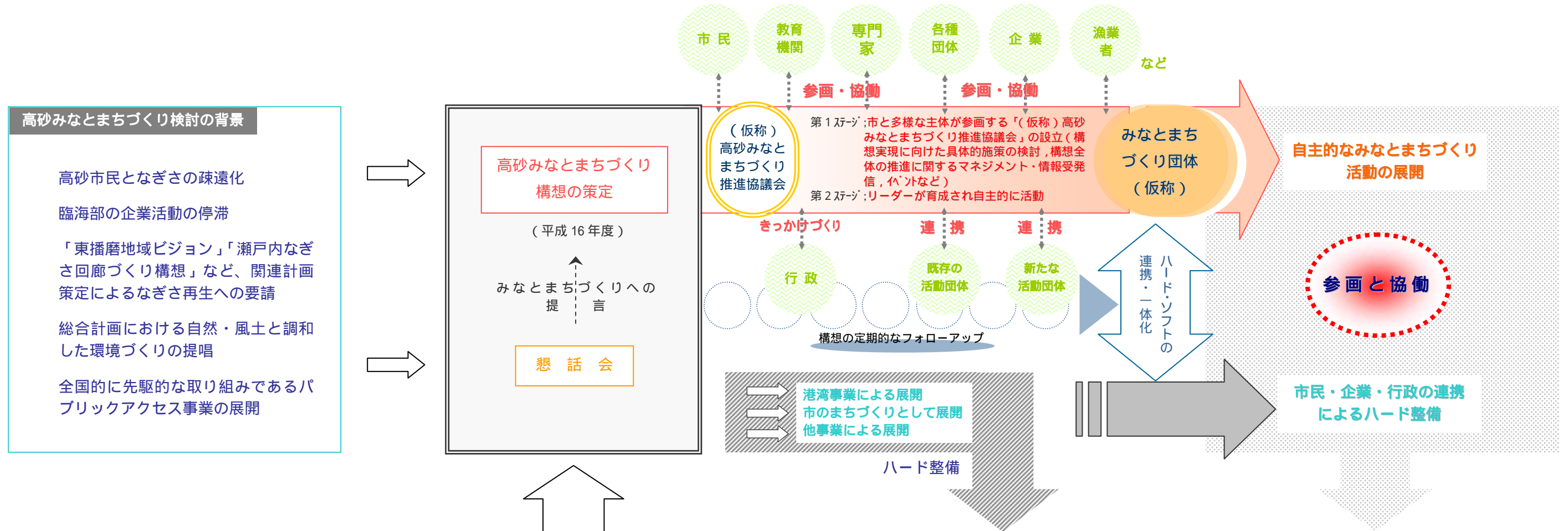
- 凡例**
- 高砂ウォーターフロントミュージアム**
- (1)市民の憩いの場であるなぎさの再生
  - (2)市民の暮らしとなぎさの距離を縮めるアクセスの強化
  - (3)周辺地域との連携による一層の水際線利用
- 高砂産業ミュージアム**
- (1)港湾・道路などの社会基盤の充実による産業の支援
  - (2)産業の活性化によるにぎわい空間の創出
  - (3)漁業の活性化によるにぎわい空間の創出
- 高砂歴史ミュージアム**
- (1)みなとの発展に関連深い歴史的資源の保全・再現
  - (2)歴史ある高砂の祭りの保全と観光資源としての活用

### 3. 実現に向けた推進システム

高砂みなとまちづくりの実現に向けた推進システムを以下に示す。

本構想の実現のために、まずは市と多様な主体が参画する「(仮称)高砂みなとまちづくり推進協議会」を設立する(構想実現に向けた具体的施策の検討、構想全体の推進に関するマネジメント、情報受発信、イベントなど)。

これには既存の活動団体、及び新たに設立された活動団体と連携しながら進めることが必要であり、定期的・多頻度にさまざまな活動を繰り返すことによって、最終的には民間主体の組織形成をめざす。これが高砂みなとまちミュージアムづくりの推進主体となるものとする。また、高砂みなとまちづくり構想は推進協議会によりその時々々の要請に対応し、適宜フォローアップすることとする。



# 参考 (仮称) 高砂みなとまちづくり推進協議会について

## イメージ

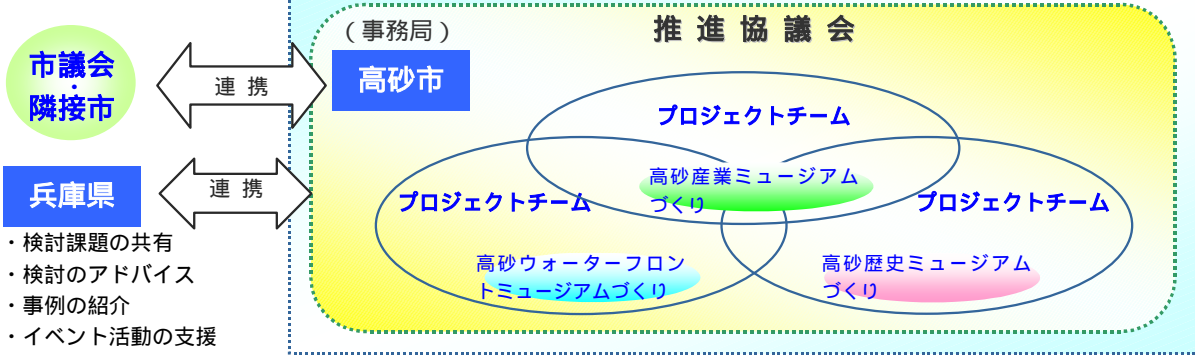
### Step 1

様々な主体の参加のもと、高砂市が事務局として協議会を運営し、構想実現化の検討やイベント等のきっかけづくりなどを行う。



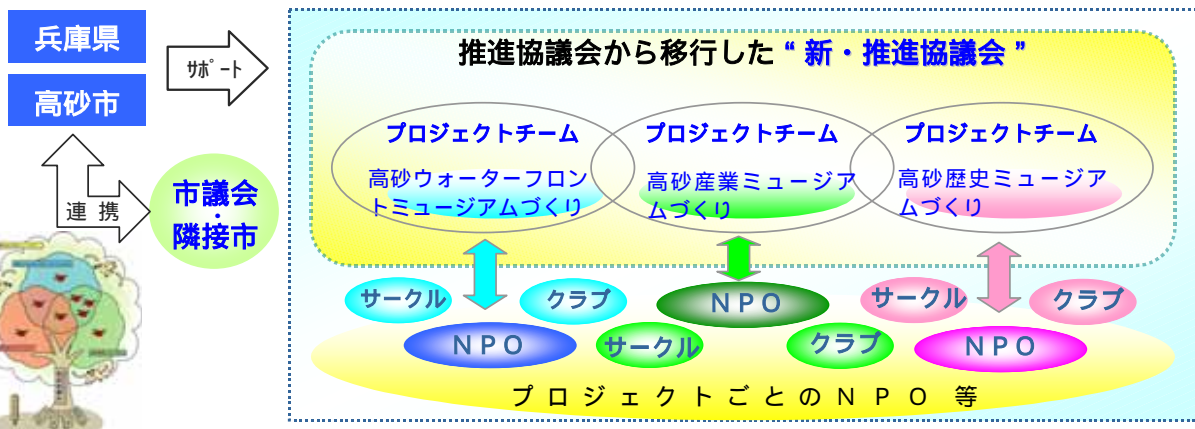
### Step 2

基本方針ごとの3つのプロジェクトチームが互いに連携しながら、構想実現化の検討やイベント等のきっかけづくりなどを行う。(事務局は高砂市)



### Step 3

リーダーが出現し、自主的な“新・推進協議会”に移行する。プロジェクトごとにNPO等と連携し、運営は協議会が行い、行政はサポートにまわる。



**Step 1****Step 2****1 設置目的**

高砂みなとまちづくり構想に位置づけされた施策をより効果的に実現するため、その方策について幅広い意見交換、検討および行動の場として協議会を設置する。

**2 協議会委員の組織（案）**

- ・市民、企業、各種団体、専門家、漁業者、教育機関等により構成する。
- ・各委員はいずれかのプロジェクトチームに属する。

**3 活動内容****(1) 構想実現に向けた具体的施策の検討（行動計画の策定）****実施順位及び実施時期の検討**

構想は広範囲で、ソフト事業、ハード事業とも多種多様な内容となっていることから、効果が高いもの、早期取り組みが可能なもの等を洗い出し、優先順位を整理する。併せて実施時期の検討も行う。

**計画の具体化**

構想は、先導プロジェクト以外は施策の方向性が主であり、どのような取り組みをするのか、どの場所にどのようなものを作るのかと言った具体的なものは定めていない。優先順位の高いものから計画を具体化させる。

**実施主体の分類**

具体化した計画の実施主体を分類する。

民間（市民、企業、各種団体等） 兵庫県、高砂市、左記の参画と協働 等

**事業進捗等の検証**

計画又は実施された事業が予定どおり進捗しているかの検証を行う。

併せて、その時々々の要請に対応し、構想のフォローアップの検証も行う。

**(2) 情報の受発信**

インターネットの活用等により、高砂市の各種資源に関わる情報等を発信し、合わせて必要な情報を受信する。

**(3) イベントの実施**

住民等への意識付け、対外的なPRのため、効果的なイベントを実施する。

**(4) ボランティアの育成**

産業ボランティア、歴史と文化の語り部、緑化協力人等の育成だけでなく、長期的視野から協議会運営ボランティアの育成にも取り組む。

**4 事務局及び運営費**

事務局は、兵庫県の協力を得て高砂市が行う。

高砂市議会及び隣接市との連携は、事務局が行う。

運営費用は高砂市が負担する。

**Step 2****Step 3****1 自主的組織への移行**

推進協議会は、高砂市が無期限で運営するのではなく、民間等による自主的な運営組織の形成を誘導し、推進協議会の業務を移行する。

**2 運営費**

まちづくり市民財団など各種助成財団の活用、その他の収入により運営する。





## 第5章 高砂みなとまちづくりを先導するプロジェクト（先導プロジェクト）

ここでは高砂みなとまちづくり構想の実現化のモデルともなるべき先導プロジェクトを示す。先導プロジェクトについては以下の方針により抽出した。

高砂みなとまちづくり構想を実現していくために早期に事業着手が必要な戦略性の高いプロジェクト

市民・企業・行政など、多様な主体に波及効果の大きいプロジェクト

# 1. 先導プロジェクト

## ～高砂ウォーターフロントミュージアム～

### 市民の憩いの場であるなぎさの再生

#### 高砂海浜公園・向島公園の再生（先導プロジェクト）

県下でも貴重な自然が残されている加古川河口部から向島公園，また貴重な水辺空間である高砂海浜公園などとの一体的利用を促すネットワークを充実させるとともに，展望施設の整備，松林を活用した名所づくり，老朽化した駐車場や公園施設の改良などによりリニューアルを図る。これにより，現況でも高砂市随一の集客数（約 30 万人/年）をほこる高砂海浜公園・向島公園の付加価値を高め，また，多様なメディアを用いてPRし広域的集客拠点をめざす。

#### 【ハード施策】

加古川河口部・向島公園・高砂海浜公園における相互間のアクセス環境整備などによる一体的利用の促進

市街地とのアクセス充実のためのサイン（案内看板など）設置

松林の再整備による松の名所づくり

公園を眺める展望台や及び老朽化した駐車場などの公園施設の改良

高砂海浜公園の海域における底質の改善

公園施設のバリアフリー化

#### 【ソフト施策】

堀川周辺の歴史再現空間との連携（イベントによる双方への連携など）

イベントの実施（公園施設の魚釣り場や野外ステージ、キャンプ場としての活用など）や総合学習への水辺空間（向島公園）の提供

自発的な維持管理体制づくりに向けたアドプト制度の活用

川・ため池などの水をテーマとしたイベントとの連携（内陸を含めた高砂ウォーターフロントの企画など）

花火大会の再開

ホームページ、パンフレットを活用した積極的なアピール

集客力向上のための交通機関との連携

地域に密着したNPOがその地域にある道路や河川などの「里親」となって、清掃や植生管理などを行う制度



案内看板のイメージ  
(阪神なぎさ回廊)



水をテーマとしたイベント例 (いなみ野ため池ミュージアム)



ボランティアによる海岸清掃のイメージ (田之代海岸)

主体	期待される効果
市民	臨海部における貴重な憩いの空間の再生による海とのふれあい機会の増大
企業	本プロジェクトとパブリックアクセスとの連携による企業貢献度のアピール度増大（企業活動への理解度増大への波及）
行政	公共施設である公園緑地のさらなる有効利用
その他	（小学校） ・環境教育や野外活動の場としての利用 ・子供の海に関する印象の改善

市民の憩いの場であるなぎさの再生

パブリックアクセス事業の活用による水際線の開放（先導プロジェクト）

水際線の多くに企業が立地する高砂臨海部において、なぎさを再生するためには企業用地を海浜緑地として市民に開放していくパブリックアクセス事業の活用が有効である。現在、全国的に先駆的な取り組みとして荒井地区において事業が推進中（平成 18 年度完成予定）である。本事業の推進，利活用を促進するとともに今後も他地区での事業拡大の可能性や他の親水空間との連携，市民など利用者へのアピール手法について検討する。

**【ハード施策】**

- パブリックアクセス事業による憩いの空間の整備推進(海を眺めることのできる展望施設，親水池，大型遊具など)
- 市街地からパブリックアクセスまでのサイン（案内看板など）設置

**【ソフト施策】**

- 公募などによる公園名の検討
- パブリックアクセスをアピールするためのテーマづくり（例：夕日が見える名所など）
- イベントの実施や総合学習への空間の提供
- 川・ため池などの水をテーマとしたイベントとの連携（内陸を含めた高砂ウォーターフロントワークの企画など）
- 産業ツーリズムとの連携によるなぎさ回廊<sup>®</sup>の検討
- 荒井地区港湾緑地検討会の継承と発展（利活用、アドプト制度を活用した維持管理システムづくりなど）



荒井パブリックアクセス事業の完成イメージ



パブリックアクセス予定地の公募による見学会風景

主体	期待される効果
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨海部の開放（新たな憩いの場の整備）による海とふれあう機会の増大</li> <li>・企業貢献度のアピール度増大（企業活動への理解度増大への波及）</li> <li>・企業内緑地率の向上</li> <li>・固定資産税の減免</li> </ul>
企業	
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業と行政の連携による事業としてのアピール</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>（小学校）</li> <li>・環境教育や野外活動の場としての利用</li> <li>・子供の海に関する印象の改善</li> <li>（広域集客）</li> <li>・夕日が見える公園として観光スポット形成</li> </ul>

港湾・道路などの社会基盤の充実による産業の支援

高砂西港のリニューアルによる臨海部企業の物流拠点と親水空間の一体整備（先導プロジェクト）

臨海部企業の物流合理化とモーダルシフトを推進するため、現状で神戸港に陸上輸送している港湾貨物を高砂西港で取り扱うことをめざして、老朽化あるいは利用が低調な専用施設の統合を含めた港湾施設の再整備と輸出入バランスの確保や定期航路との連携を促すため、姫路港・神戸港との輸送ネットワークの構築を検討する。また、沖浜平津線の整備が完了すれば、高砂臨海部で最も水際線までアクセスが良好となり、みなとのみえる公園などの親水公園を一体整備することにより、高砂の海のエントランスとして位置づけられる。

【ハード施策】

臨海部企業の需要に対応した西港の再編（-7.5m岸壁の新設・コンテナ対応施設整備・企業の専用岸壁からシフトする貨物対応ふ頭整備）

親水公園（みなとのみえる丘公園）の整備

【ソフト施策】

利用者増加に向けた港湾サービスの向上策の検討（コスト・荷役時間・インセンティブなど）

将来的に内陸からの貨物を誘致するための需要調査・ポートセールス

姫路港・神戸港との広域連携（輸出入バランス・互いの定期航路の活用など）



港湾機能充実の事例  
（姫路港大水深岸壁）



コンテナ荷役風景（姫路港）

主体	期待される効果
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>入港船舶の増加による市経済の安定</li> <li>臨海部における憩いの空間創出による海とのふれあい機会の増大</li> </ul>
企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>内陸輸送コスト（物流コスト）削減</li> <li>沿道環境改善への貢献</li> <li>専用施設の維持・補修費削減</li> <li>企業活動の円滑化</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>東播磨港の活性化</li> <li>港間連携の先導的事例としてのアピール</li> <li>港が見える公園による港湾への一般市民などの理解度の向上</li> </ul>
その他	<p>（小学生）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>港が見える公園を使った教育の場の増大</li> </ul>

産業の活性化によるにぎわい空間の創出

産業ツーリズムの推進と産業支援に向けたソフト施策の充実（先導プロジェクト）

高砂市臨海部においては、世界的に優れた技術を持つ工場や、古い遺産を持つ工場が立地している。これらを広く市民に公開しアピールすることにより企業イメージの向上が図れるとともに、産業のみであった空間に新たに人々を呼び込むことにつながり、臨海部の活性化に寄与できる。このため、まずは産業ツーリズムを積極的に推進するための推進機能を整え、陸上だけでなく海上ルートの設定、大和朝廷時代から竜山石を産出している生石周辺との連携やボランティアガイドの活用を検討する。

また、産業誘致や企業活動の支援により臨海部の活性化を図るため、不動産取得税の軽減などの税制措置や研究に関する資金支援、構造改革特区や地域再生制度の活用、産業誘致・支援に関するインセンティブの導入などのソフト施策について検討し、積極的に適用していく。

【ソフト施策】

- 産業のPR誌の作成
- 陸上や海上からの産業ツーリズム、イベントの企画・実施
- 企業内施設（スポーツ施設、ショールームなど）の地域開放
- 商工会議所と企業などによる産業ツーリズム推進組織の結成
- 産業ボランティアガイドの育成
- 構造改革特区（高砂工業公園）や地域再生制度の活用による産業の誘致
- 産業支援・誘致に関するインセンティブ制度などの活用検討



高砂商工会議所による工場見学案内のHP

主体	期待される効果
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民と企業の融合</li> <li>・臨海部への訪問機会の増大</li> </ul>
企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業活動のアピール度増大</li> <li>・企業・行政・市民の融合</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政と市民の融合</li> <li>・企業活動の円滑化による市財政の安定</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>(小学校)</li> <li>・社会教育の場としての利用</li> </ul>

みなとの発展に関連深い歴史的資源の保全・再現

堀川地区まちなみの保全と水路の景観形成（先導プロジェクト）

堀川地区は、昔高砂が加古川と瀬戸内航路をつなぐ船運の拠点として繁栄した面影を残しており、その景観を再現・保存するとともに、さらには観光資源として活用を図り、将来的には広域的な観光拠点をめざす。また、関係団体との連携によるセミナーやワークショップの開催などのソフト施策の推進を検討する。また高砂消防本部高砂分署の活用など、貴重な拠点的資源の活用とネットワークの構築を検討する。一方、船着き場として整備された堀川の独特な形状は、昔の景観を整えることによって、堀川地区の歴史的景観の中心地となる可能性を十分に秘めており、今後堀川水路の景観については十分な議論により、その修景をめざしていくべきである。

【ハード施策】

既存の拠点的資源と水路などを結ぶネットワーク（散策路）整備

【ソフト施策】

関係団体との連携によるセミナーやワークショップの開催

歴史回廊ルート・観光ガイドづくりとイベント実施

景観形成地区指定に向けた取り組み（拠点からの指定など、段階的な指定を検討）

古い町屋の保存・活用（アトリエ・ギャラリーなど）

高砂消防本部高砂分署などの貴重な資源をまちづくり拠点として活用

（堀川地区のまちなみを保全する拠点として活用）

ボランティアガイドの育成



現存する堀川の歴史的まちなみ



堀川地区におけるまちづくりの活動風景

主体	期待される効果
市民	・歴史の体験と再認識
企業	・パブリックアクセス・企業ツーリズムとの連携による企業貢献度のアピール度増大
行政	・高砂市の歴史のアピール ・旧港再開発としての先導的事例としてのアピール
その他	（小学校） ・社会教育や野外活動の場としての利用 （広域集客） ・歴史的まちなみの観光スポット形成

歴史ある高砂の祭りの保全と観光資源としての活用

高砂神社秋祭り船渡御神事の継承と祭りの保存（先導プロジェクト）

船渡御神事の高砂神社，仁輪加太鼓の荒井神社，一つ物神事の曾根天満宮をはじめ，高砂市の秋祭りは，ヤッサと呼ばれる煌びやかな金具や豪華な布団屋根屋台を勇壮に練りあわすことでも知られる。これらの多くの祭りを高砂の文化として保存・継承していき，また連携させながらアピールすることにより観光資源としての活用も可能となる。

特に、海との関係が深い船渡御神事については、昔は砂浜から神輿を船に載せられたが、近代の護岸整備により砂浜がほとんど無いため、昔のような2船渡御神事が行えない現状となっている。今後のあり方についての議論をすすめ、その保存と継承をめざす

【ハード施策】

- 船渡御を行う施設の整備支援
- 関連施設の整備（散策路や護岸など）

【ソフト施策】

- 船渡御神事の継承・保全の方向の検討
- 堀川地区のまちづくりとの連携による来訪者の堀川地区全体への誘導



高砂神社秋祭り船渡御風景

主体	期待される効果
市民	・ 伝統行事である祭りの保全（船渡御の継続）
企業	・ パブリックアクセス・企業ツーリズムとの連携による企業貢献度のアピール度増大
行政	・ 高砂市の歴史のアピール
その他	（小学校） ・ 社会教育や野外活動の場としての利用 （広域集客） ・ 歴史的まちなみの観光スポット形成

2. 高砂みなとまちづくり構想図

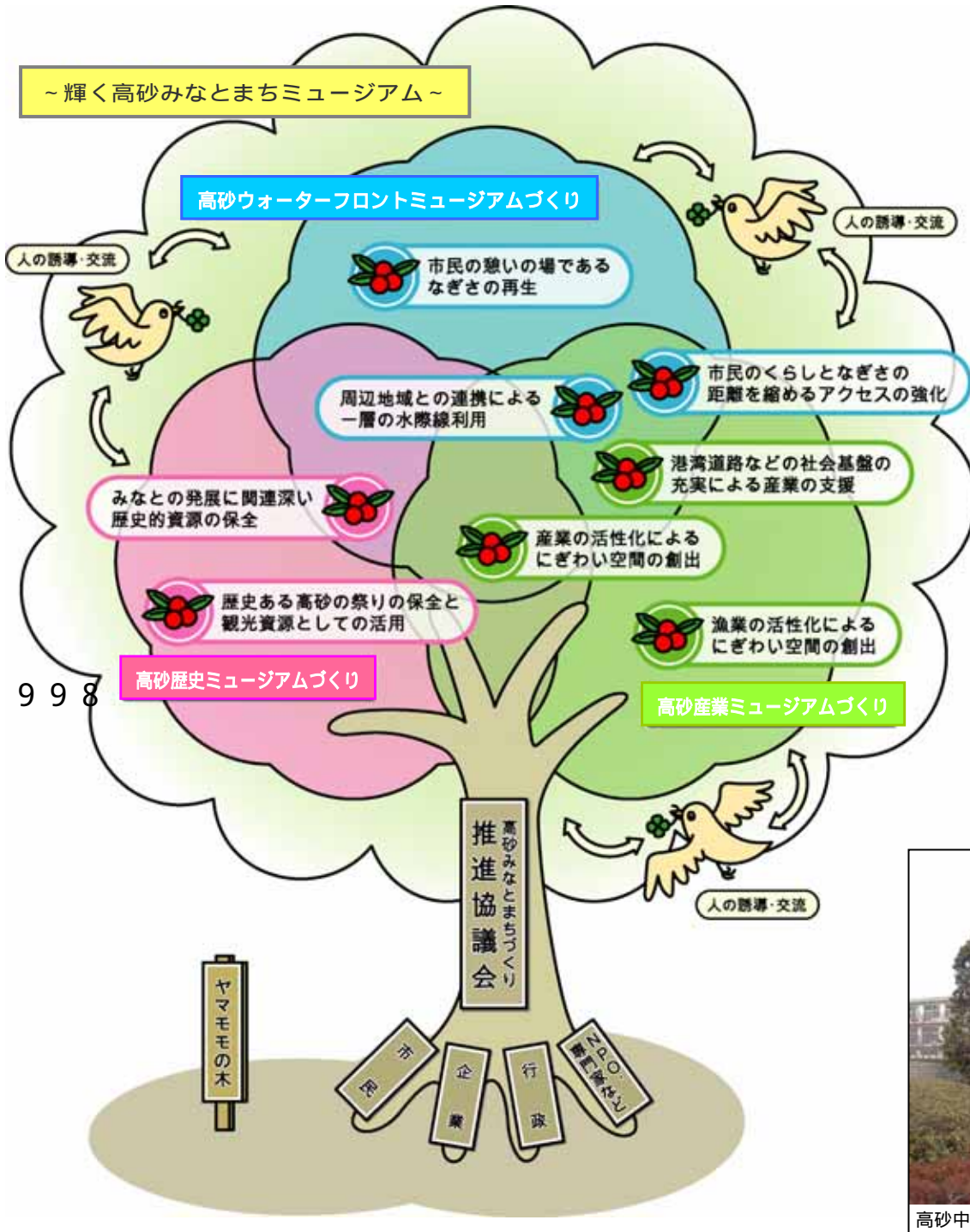
～輝く高砂みなとまちミュージアム構想～





## 参考 3つの基本方針の連携の考え方

高砂みなとまちづくりの推進に当たっては、3つの基本方針（ミュージアム）ごとに進めていくだけでなく、いくつかのミュージアムづくりとの連携を考慮して検討する必要がある、基本方針の展開方向の連携関係を「高砂みなとまちづくり構想シンボルの木<ヤマモモ>」になぞらえて示す。



高砂中央公民館のヤマモモの木

### ～高砂みなとまちづくり構想 シンボルの木～

ヤマモモは潮風に強い常緑の高木であり、近隣に雄株がないと結実しないという特徴を有する。つまり雌雄揃うことによって果実を实らせる木であり、プライダル都市高砂を象徴する木といえる。常緑で潮風に強く、生命力みなぎるその様と真っ赤な果実は今後の高砂みなとまちづくりのめざす高砂市の活力向上のイメージにもつながるものであることから、高砂みなとまちづくり構想のシンボルとして位置づける。